

資料3 紹介事例の「リスク評価表」と「リスク管理記録」記入例

事例 : 型板ガラス・網入板ガラス製造工程
トップ型ロール洗浄作業、ワイヤートレイ整備作業

事例 : 型板ガラス・網入板ガラス製造工程
縦割れ処理作業

事例 : みがき板ガラス製造工程
板運搬(トラバーサ運転)作業

事例 : みがき板ガラス製造工程
一連スラリーポンプ運転・停止作業

事例 : みがき板ガラス製造工程
一連タンク掃除作業

事例 : 電子用板ガラス製造工程(面取り機)
<新規設備導入時のリスクアセスメント例>

リスク評価表

定常	非常	緊急	ページ
○			(1 /)

OSH 管理責任者	部門長	部署長
印	印	印

ライン(工程)名：型板ガラス・網入板ガラス製造工程

リスク評価者：（ 5 名）

リスク評価 年月日： 年 月 日

No.	作業・工程名 設備名称	危険作業項目	頻度 回/	時間 分/回	リスクの内容 ハザードの洗い出し及び予想されるけが	けがの大きさ	けがの 度合	けがの可能性			対策前 レベル	リスク対策内容	けが 度合	けが 度合	対策後 レベル
								ハード	ソフト	度合					
1	洗浄作業 (型ロール)	ホース取り付け作業	3/月	5分	ホースが体に当たって打撲する	打撲		c h	c s	c	2				
					ホースにつまづき転倒する	捻挫		c h	c s	c	2				
		洗浄機セット作業	3/月	5分	セット時に指を挟む	切創		c h	c s	c	2				
		水圧テスト作業	3/月	5分	中腰でテストするため腰痛になる	腰痛		c h	c s	c	2				
		洗浄機抜き出し作業	3/月	5分	洗浄機が熱く火傷する	軽度の火傷		c h	c s	c	2				
					パイプ外し時に手を挟む	血豆		c h	c s	c	2				
		洗浄機運搬作業	3/月	5分	取り出し時に指に挟む	切創、血豆		c h	c s	c	2				
					作業台、階段でつまづき転倒する	捻挫		c h	c s	c	2				
		ホース水抜き作業	3/月	2分	水抜き時にホースが振られ体に当たる	打撲		c h	c s	c	2				
					ホースに足を引っかける	捻挫		c h	c s	c	2				
2	ムカデコンベヤ 調整作業	コンベヤ張り作業	6/年	10分	ピットの階段で滑り転落する	骨折		b h	c s	b	9				
					スパナが外れ勢い余って転倒する	打撲		c h	c s	c	2				
					中腰作業の無理な姿勢で腰痛になる	腰痛		c h	c s	c	2				
3	ワイヤトレイ 整備作業	蒸気洗浄作業			蒸気で火傷する	中度の火傷		b h	c s	b	9				
					蒸気ホースにつまづき転倒する	捻挫		c h	c s	c	2				
					回転体に巻き込まれる	捻挫		c h	c s	c	2				
					フレキシブルホースで火傷する	軽度の火傷		c h	c s	c	2				
		足場・手摺セット・収納 作業	3/月	20分	セット・収納時に開口部よりピットに 墜落する。収納時に指を挟む	死亡 切創、血豆		a h	a s	a	1 6	足場と開口部の蓋の兼用化と開閉方法の安全化		d	5
								c h	c s	c	2				
		通水テスト・水抜き作業			水抜き時にホースが振られ体に当たる	打撲		c h	c s	c	2				
		ボビンロール研磨作業			ホース脱却時に足場から転落する	骨折		c h	c s	b	6				
					研磨重り取り付け時に腰痛になる	腰痛		c h	c s	c	2				
		各部増締め作業			重りを足に落とす	骨折		c h	c s	b	6				
					スパナが外れ勢い余って転倒する	打撲・捻挫		c h	c s	c	2				
		キャブタイヤ巻き作業			足場から転落する	骨折		b h	c s	b	9				
					コードが重いため腰痛になる	腰痛		c h	c s	c	2				
		油污れ掃除作業			フレームに頭をぶつける	打撲		c h	c s	c	2				

必ずしも記入しなくても良い

リスク評価表

定常	非定常	緊急	ページ
○			(1 /)

OSH 管理責任者	部門長	部署長
(印)	(印)	(印)

ライン(工程)名：型板ガラス・網入板ガラス製造工程

リスク評価者：（3名）

リスク評価 年月日： 年 月 日

[illegible]

→ 必ずしも記入しなくても良い

OSH 管理責任者	部門長	部署長
(印)	(印)	(印)

リスク評価 年月日： 年 月 日

必ずしも記入しなくても良い

リスク評価表

定常	非定常	緊急	ページ
○			(1 /)

OSH 管理責任者	部門長	部署長
(印)	(印)	(印)

ライン(工程)名：みがき板ガラス製造工程

リスク評価者：（８名）

リスク評価 年月日： 年 月 日

[illegible]

→ 必ずしも記入しなくても良い

リスク管理記録

平成 年度

部署名：

(重大) リスク及び対応策

			承認	作成者
			㊟	㊟
作業名及び リスク内容	一連砂ポンプ運転作業 ・ 階段の昇降時、滑り転落する	けがの 大きさ	けがの 可能性	レベル
			b	1 3
対応策	・ 階段を改善する ・ 手摺りをしっかり掴み昇降する(標準作業の遵守)	けがの 大きさ	けがの 可能性	レベル
			b	9

実施記録

月日	実施内容	けがの 大きさ	けがの 可能性	レベル	承認	作成者
H 1 2						
/	・ 作業手順書見直し、改訂		c	1 0	㊟	㊟
/	・ 「階段昇降時、注意」標示板設置 カットレタリングで作成・取付け		c	1 0	㊟	㊟
H 1 3	・ 階段改造実施		c	2	㊟	㊟
/	(レイアウトを変更し、中間に踊場を 設け、階段の勾配も緩くした。)					
	参考写真：事例 - 3 階段のレイアウト変更 踊り場を設け、勾配を緩くした					

リスク評価表

定常	非常定常	緊急	ページ
○			(1 /)

OSH 管理責任者	部門長	部署長
印	印	印

ライン(工程)名：みがき板ガラス製造工程

リスク評価者：（ 7 名）

リスク評価 年月日： 年 月 日

No.	作業・工程名 設備名称	危険作業項目	頻度 回/	時間 分/回	リスクの内容 ハザードの洗い出し及び予想されるけが	けがの大きさ	けがの 度合	けがの可能性			対策前 レベル	リスク対策内容	けが 度合	けが 度合	対策後 レベル					
								ハード	ソフト	度合										
1	一連タンク	#1～#4 タンク水洗い作業	1 / 週	90 / 回	タンク上部での水洗い時、タンク内へ 転落する。	全身骨折 ・死亡		c	h	b	s	c	1	3	K Y、指差呼称の実施、教育訓練		c	1	1	
											(12+1)				特設歩廊を作る		c		6	
								b	h	b	s	b	1	0	治具を使用する。転落可能性のあるカス の有無を確認する		b		9	
								c	h	a	s	b	9	K Y、指差呼称の実施、教育訓練		c		6		
		#5～#8 タンク水洗い作業	1 / 月	150 / 回	堰の水洗い作業時、タンク内へ 転落する。	全身打撲、 骨折・死亡		c	h	b	s	c	1	3	K Y、指差呼称の実施、教育訓練		c	1	1	
											(12+1)							(12-1)		
								c	h	b	s	c	1	3	K Y、指差呼称の実施、教育訓練		c	1	1	
											(12+1)				特設歩廊を作る		c		6	
								b	h	b	s	b	1	0	K Y、指差呼称の実施、教育訓練		c	1	1	
		スラリーポンプ運転作業	1 / 月	20 / 回	タンク上部での水洗い時、タンク内へ 転落する。	全身骨折 ・死亡						(9+1)				掃除専用器具を使用する		c		6
								c	h	a	s	b	9	K Y、指差呼称の実施、教育訓練		c		6		
								c	h	c	s	c	6	K Y、指差呼称の実施		d		1		
								c	h	c	s	c	6	治具を使用する		d		1		
水中ポンプの設置	1 / 週	5 / 回	ポンプ移動時、床で躓いて転倒する	足の捻挫		c	h	c	s	c	6	K Y、指差呼称の実施		d		3				
						c	h	c	s	c	6	電動式に改造する		d		3				
					移動チェーンが外れ、手直し時 ピット内へ転倒、転落	足の捻挫 、打撲														

必ずしも記入しなくても良い

リスク管理記録

平成 年度

部署名：

(重大) リスク及び対応策

			承認	作成者
			㊟	㊟
作業名及び リスク内容	一連タンク掃除 ・ #1 ~ #8 タンク上部での水洗い時、タンク内に 転落する。	けがの 大きさ	けがの 可能性	レベル
			c	1 3
対応策	・ 特設歩廊の設置 ・ K Y、指差呼称の実施および教育訓練の実施	けがの 大きさ	けがの 可能性	レベル
			c	6

実施記録

月日	実施内容	けがの 大きさ	けがの 可能性	レベル	承認	作成者
H 1 2						
/	・ 作業手順書見直し、改訂		c	1 0	㊟	㊟
	タンク上部からの水洗い注意					
	タンク下部の人と声を掛けあう。					
/	・ 工事開始				㊟	㊟
/	・ タンク上部歩廊増設完了（外注）		c	6	㊟	㊟
	掃除中の転落がなくなる。					
	参考写真：事例 - 3 一連タンク上部、タンク内掃除等での転落防止安全柵付きの歩廊増設。					

リスク評価表

定常	非定常	緊急	ページ
○			(1 /)

OSH 管理責任者	部門長	部署長
印	印	印

ライン(工程)名：電子用ガラス製造工程

リスク評価者：(6名)

リスク評価 年月日： 年 月 日

No.	作業・工程名 設備名称	危険作業項目	頻度 回/	時間 分/回	リスクの内容 ハザードの洗い出し及び予想されるけが	けがの大きさ	けがの 度合	けがの可能性			対策前 レベル	リスク対策内容	けが 度合	けが 度合	対策後 レベル
								ハード	ソフト	度合					
1	面取機	ジョブチェンジ実行操作 (J / C)	6~10 /直	3~10 /回	面取停止中、作業者 1 名が機内にいる事に気が付かず、ほかの作業者が面取機 J / C 実行操作を行った為、機内にいた作業者が加工テーブル、又は移載機に衝突し、腕、足を切創、打撲、骨折	腕、足の骨折		c h	c s	c	1 1	精度測定モードを設け、このモードで必要な箇所しか動かないようにした。 また、上記モードにしないで扉を開けると、非常停止が作動するようにした。		d	4
2	面取機	砥石交換	1~2 /直	15/回	足場が狭い場所で無理な体勢により交換作業を行っていて体のバランスを崩して転倒し、手足を切創、打撲	腕、足の打撲・切創		c h	c s	c	7				
3	面取機	砥石交換	1~2 /直	15/回	砥石を取外していてアーバーシャフトがチャック内から抜けたときに勢い余って砥石を持っていた両手の指を砥石とカバーに挟み打撲	手(指)の打撲		c h	c s	c	7				
4	面取機	砥石交換(交換後の確認)	1~2 /直	15/回	砥石交換後、砥石の溝位置を確認するため、作業者 1 名がテーブルを手動操作で移動させていたところ誤ってテーブル速度を増速させてしまい、機内に溝位置確認を行う為にいた作業者にテーブルが衝突して手足を打撲、骨折	腕、足の骨折		c h	c s	c	1 1	手動操作時には、テーブルが ” 低速 ” でしか動かないようにした。		d	4
5	面取機	砥石ドレス	6~12 /直	10/回	足場が狭い場所で無理な体勢で砥石にドレスを行った時に体のバランスを崩し、転倒して手、足を切創、打撲	腕、足の打撲・切創		c h	c s	c	7				
6	面取機	砥石ドレス	6~12 /直	10/回	機内で作業者がドレス作業を行っている事に気付かず、他の作業者が運転操作を行い加工テーブル又は移載機が移動してドレスを行っていた作業者に衝突して、手、足を切創、打撲、骨折	腕、足の骨折		c h	c s	c	1 1	ドレスモードを設け、このモードで必要な箇所しか動かないようにした。 また、上記モードにしないで扉を開けると、非常停止が作動するようにした。		d	4
7	面取機	加工テーブルクリーニング	6~12 /直	10/回	足場の悪い機内を中腰状態で、移動しながらテーブルを拭いていてテーブル又は蛇腹等に躓いて転倒し、手、足を切創、打撲	腕、足の打撲・切創		c h	c s	c	7				

必ずしも記入しなくても良い

リスク管理記録

平成 年度

部署名：

(重大) リスク及び対応策

			承認	作成者
			印	印
作業名及び リスク内容	・面取機内に作業者がいるのに気付かず、ジョブ チェンジ(J / C) 実行操作を行い、加工テー ブルに挟まれ骨折する。	けがの 大きさ	けがの 可能性	レベル
			c	1 1
対応策	・機内作業モードを設け、このモードにしてキー を抜かないと警報が鳴り止まないようにする。 ・上記モードにしないで扉を開けると、非常停止 が作動するようにする。 ・パトライトを取り付け、キーを戻すまで点灯し 続けるようにする。	けがの 大きさ	けがの 可能性	レベル
			d	2

実施記録

月日	実施内容	けがの 大きさ	けがの 可能性	レベル	承認	作成者
H 1 4	・ № 1 ～ 2 面取機、ロープスイッチ (非常停止)		c	1 1	印	印
/	取付け。					
	№ 3 面取機砥石部に非常停止ボタンを					
	取り付ける。					
/	・ 作業標準書作成		c	1 1	印	印
	「面取機安全柵内作業」					
/	・ 標準書に基づき教育を実施		c	1 1	印	印
/	・ 精度測定モードを設け、このモードで必要な		c	1 1	印	印
	箇所しか動かないようにした。					
	上記モードにしないで扉を開けると、					
	非常停止が作動するようにした。					
/	・ 上記、改定内容を標準書へ盛り込んだ。		c	1 1	印	印
/	・ 標準書に基づき教育を実施。		d	4	印	印